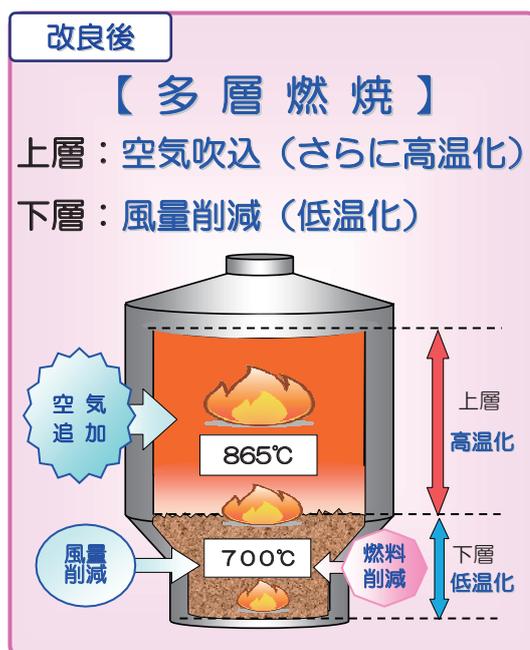
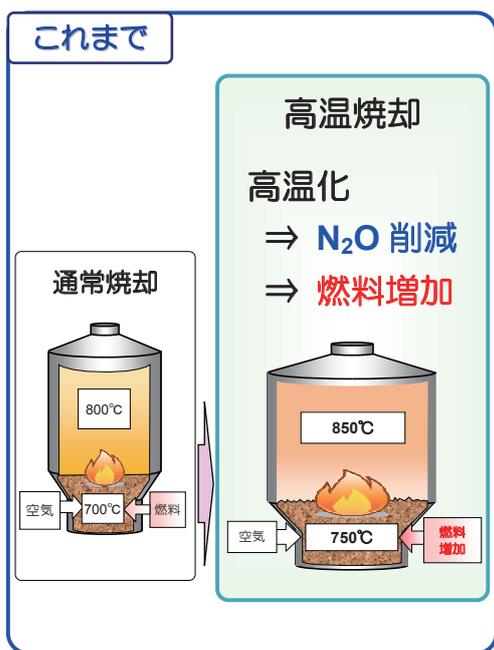


汚泥の多層燃焼による温室効果ガスの削減

東京都



焼却炉上層に追加した空気を吹き込むダクト

事業効果

高温焼却と比較して

- 温室効果ガス削減量 約 10,000t-CO₂/年
- 燃料使用量削減量 約 430,000m³N/年

東京ドーム (4.7ha) 約 590 倍の森林面積が吸収する量に相当

一般家庭約 1,410 世帯が 1 年間に使用する都市ガス量に相当

東京都では、南部スラッジプラントの流動焼却炉を改良して、温室効果ガス削減効果の高い多層燃焼を平成 21 年度から実施しています。

この多層燃焼は、流動焼却炉内の下層部への風量を削減し N₂O (一酸化二窒素) 発生を抑制し、上層部に空気を吹き込み、下層部で発生した N₂O を高温化により熱分解するものです。既存の流動焼却炉を多層燃焼に改造することにより、温室効果ガス削減の迅速化と燃料削減が図れます。更なる温室効果ガス削減と維持管理コストの縮減を達成するため、適用可能な汚泥焼却炉へ展開しています。